## 【戦略プロジェクト評価(令和2年度)】

戦略プロジェクトの概要

100

120

140

117

当初值

H30

R1

R2

戦略プロジェクト名	2020あつまる・つながるまちプロジェクト 観光やスポーツを通して国内外から多くの人が訪れ、また 訪れたくなるまちになる					
期待する効果						
重点取組期間	平成30~令和2年度 交流推進部					
主管部名						
戦略プロジェクト 統括マネージャー	伊瀬谷 渉 交流推進部長					

戦略プロジェクトに取り組む背景	↓ 戦略プロジェクトの取組の内容			
まちの活力を維持していくため、定住人口の維持を図るとともに、恵まれた食や観光資源など、本市の魅力を生かした誘客の促進や若者の活躍の場の創出、スポーツを新たな機軸とするインバウンド獲得など、交流人口の増加を図り、まちに賑わいを生み出していくことが本市の重要課題となっている。	本市を訪れる旅行客が満足し、選ばれる観光地域となるため、歴史や自然、文化などの恵まれた観光資源を生かし、ブラッシュアップするとともに、国内外からの観光客受入態勢の整備を進めるほか、様々な媒体を通じ、本市の魅力を積極的にプロモーションする。 また、東京2020オリンピック・パラリンピックの機運を高め、ホストタウン事業などに取り組むとともに、MICE(マイス)の誘致や盛岡ファンづくりを推進するなど、交流人口を増やし、魅力があふれるまちづくりを推進する。			
対象(誰(何)を対象として行うのか)	上			
国内外の人	盛岡に来てもらう(交流人口が増える)。			
市民	盛岡に愛着を持ってもらう。			

戦略プロジェクト 統括マネージャー 伊瀬谷 渉 交流推進部長				国内外の人 市民				
標指標の状況・評価	(令和2年7月時点)	)	_					
実績値の推移			実績の評価					
		単位	「指	標の目指す方向」に向けて特に寄与している点	===	⇒ 特に寄与している点の要因分	析	
指標① 観光客入込数 万人回 当初値(H25) 472 R2目標値 504 目指す方向			│ ・外国人など観光客の受入環境整備に向けて,市内5箇所(いわて・盛岡広域観 → 光センター(盛岡駅2階南改札手前),市役所本庁舎本館1階,もりおか歴史文化 ・コロナ禍において,観光需要の回復期に向けた受入環境が整った。					
			館、プラザおでって、もりおか町家物語館)に無料Wi-Fi(盛岡City Wi-Fi)を整備した。 ・若者に人気の高いインフルエンサーを活用して、首都圏の若者をターゲットとした観光情報を発信できた。 ・「盛岡という星で」プロジェクトの一環として、体験ツアーを実施することで、市への来訪のきっかけ作りを行うことが出来た。 ・いしがきミュージックフェスティバルは、昨年に引き続き写真展の併設、花火の打ち上げを行い、雨天の中での開催であったが、過去2番目に多い来場者(86,316人)で賑わった。			・それぞれの活動に対し、訴求する相手方(ターゲット)を設定したことで、効果な訴求につながった。 ・民間事業者などと連携し、ターゲットを明確にしたプロモーションの方向性を築したうえで事業を実施した。		
180 472			「指標の目指す方向」に向けた問題点 □ 問題点の要因分					
470 460 450 440 当初値 H26 H27 H28 H29 H30 R1 R2 ※ 平成25年度の実績値を基準に目標値を設定している			上に向けた事業の・MICEについては・東北六市連携にでいていた。東北六市連携にピックの延りに下でではでいた全ででは、たっていた会にでは、はなってはいいのでは、現れては、はないのでは、現れているがありがある。いしがきミュージ	新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、指り延期または中止となっている。は、22件の申請中、既に12件が辞退している。よる首都圏プロモーションは、東京2020オリンピック・パー型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、令和でのプロモーションが中止となった。 泊施設で6月実施予定としていた盛岡さんさ踊りなどの「は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けば新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けをのところ開始の時期は未定となっている。者や盛岡デーへの来訪者など、東京盛岡ふるさと会以り人との継続的な連携が十分とは言えない。ックフェスティバルは、メイン会場である盛岡城跡公園の野客の拡大のため、資金確保が課題となっている。	ラリン 12年度 「盛岡伝 ナ, 延期 外で盛	・観光関連事業者については、3月くらいから新型コロナウイルス感染症の影響が出始め、現在も収束の見通しが立っていないことから、指標の向上に向けた誘客促進の取り組みが出来ない状況になっている。 ・盛岡デーの来訪者等と継続的な関係性を持つ手法が確立できていない。 ・広告宣伝や周知イベント等の回数や参加人数が限られており、大規模なプロモーションに繋がっていない。 ・いしがきミュージックフェスティバルは、史跡である盛岡城跡公園の石垣修復工事や発掘調査等の影響により、会場の設営や利用に工夫が必要になっている。また会場の設営の変更に伴い、事業費が増加しており、実行委員会においても新たな財源確保のためクラウドファンディングを実施している。		
		単 位	「指	標の目指す方向」に向けて特に寄与している点		⇒ 特に寄与している点の要因分	↑析	
標② 外国人観光客入込(宿) 初値(H28) 23,649 R2目		方向 人	外国人観光客の MB人観光客の MBDCity Wi-Fi	受入環境整備に向けて,もりおか歴史文化館などに無料)を整備した。	∮Wi−Fi	・コロナ禍において、観光需要の回復期に向けた受力	、環境が整った。	
50,000 - 53,432 65,597 R2目標値				「指標の目指す方向」に向けた問題点		⇒ 問題点の要因分析		
0,000 0,000 0,000 34,249 0,000 当初值 H29	34,249		光客の誘客に寄り 月末までの運休が	新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により,外 手する花巻空港の国際定期便(台湾・中国)が,現在のと 「決定している。 が困難な状況になっている。		・外国人観光客の有力な交通手段となる花巻空港の 見通しが立たない状況になっている。 ・国内外での新型コロナウイルス感染症の感染まんる 期が見通せない状況となっている。		
		単 位		標の目指す方向」に向けて特に寄与している点		⇒ 特に寄与している点の要因分	<b>卜析</b>	
当初値(H28) 117 R2目標値 50 目指す方向 / 中心に盛岡の - 「地域おこし打した情報発信。 - 関係人口を横口ジェクトを立とが出来た。 - 新型コロナ感る。 - 新たな観光資 60 - 62			中心に盛岡の認知 ・「地域おこし協力 した情報発信,ウ ・関係人口を機軸 ロジェクトを立ち上 とが出来た。 ・新型コロナ感染り る。	クを企画制作し、ゲストハウスに配架することにより、外間度を向上させることができた。 隊」の活動により、首都圏における写真展開催や、SNSエブへの記事の提供などを行うことが出来た。 とした移住・定住・交流人口対策事業として「盛岡というとは、情報発信や首都圏における盛岡コミュニティ形成を こが、情報発信や首都圏における盛岡コミュニティ形成を この感染拡大をきっかけに地元への移住ニーズが高まな として、舟運に関するイベントの開催や社会実験を実施し	Sを活用 星で」プ を行うこ ってい	・それぞれの活動に対し、訴求する相手方(ターゲットな訴求につながった。 ・新型コロナ感染症の感染拡大によりテレワークが実の考え方に変化が生じている。 ・舟運事業について、主体的に取り組んでいる地元団加わった実行委員会の設置により、導入実現に向けま	施されたことで、職住近接	
			J. Para Start	「指標の目指す方向」に向けた問題点		⇒問題点の要因分析		
			グ研修が, コロナ	クの配布活動や、情報発信を効果的に行うためのマーク ウイルス感染拡大防止のため中止となった。 果が、指標の上昇に繋がらないことがある。	ケティン	<ul> <li>・年度末に実施時期を集中させてしまったことから、スとができなかった。</li> <li>・担当課ごとに取り組んでいるプロモーションを全庁的ることでよりプロモーションの効果が高まり、指標の上</li> </ul>	りな視点で把握し, 連携さ	

・新型コロナ感染症の感染拡大をきっかけに、地元への想いが強まる傾向にある

・住民基本台帳のようなデータベースがないため、盛岡出身者などに対するアプ

・舟運事業は、社会実験から得られた水深不足などの情報を基に、運航の安定

中で、盛岡との具体的な接点を持つ行動変容に至っていない。

ローチが難しい。

に活用される必要がある。

今後の展開(評価時点~令和3年度)

## 評価を踏まえた今後の取組

- ☆1 国内の新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を踏まえ、都道府県をま たぐ移動に配慮しつつ、県内を中心とした域内の観光需要喚起につながる事業 に取り組む。
- ☆2 国内の感染状況に応じて、県内から東北5県、信越地方、関東圏などを視 野にターゲットの検討を行い、観光需要喚起策としての実施可能な観光プロモー ションを展開する。
- ☆3 感染症収束後の観光需要の回復期と令和3年4月からの東北デスティネー ションキャンペーンを見据えた観光プロモーションを検討し、実施に向けて取り組
- ☆4 岩手もりおか復興フェスタは、これまで同時開催していた盛岡広域商工団 体が主催する「もりおか広域まるごとフェア」の中止が決定したこと及び新型コロ ナウイルス感染症の収束時期が見通せず、万全な感染防止策を講ずることが困 難なことから、今後実行委員会内で中止に向けた協議を行う。令和3年度につい ては、開催時期、会場等の変更を含めて、継続開催に向けて関係団体等と協 議、調整する。
- ☆5 MICEについては、開催の可否判断は主催者側に委ねられるため、今年度 中の開催の可否は不明であるが、開催の際の感染防止策について、万全を期す る対策を講じるための受入側の準備を行うとともに、令和3年度以降の開催に向 けて、三密の回避など、感染症収束後の新しい生活様式を取り入れた感染防止 対策を講じた誘致宣伝活動に向けた取り組みを行う。
- ☆6 つなぎ温泉の盛岡伝統芸能常設公演は、収束の時期や感染防止対策を講 じた上で、令和2年度中の開催について検討し、実施に向けて取り組み、令和3 年度以降の継続公演につなげる。
- ☆7 「盛岡市シティプロモーション指針及び推進計画」に基づき, 市外に向けた プロモーションの効果を高めるため、マーケティング手法を取り入れた情報発信
- ☆8 いしがきミュージックフェスティバル実行委員会への負担金による支援を継 続する。また、新型コロナウィルス感染症の影響で、大規模なイベントの取り扱い について国や県の動きを注視していく必要がある。
- ☆1 海外定期便の就航の再開時期や国内における外国人観光客の受入れ体 制の整備などを注視しながら、令和3年4月からの東北デスティネーションキャン ペーンや東京オリンピック・パラリンピックの開催を見据え、本市において入込数 が多い台湾や中国をターゲットとした盛岡広域によるプロモーションについて検 討し, 実施に向けた取り組みを行う。
- ☆2 Withコロナにおける観光地や宿泊施設などにおけるインバウンドの受入れ にあたっての感染防止対策など、観光庁など国や関係団体等の動向を注視し、 必要な環境整備に取り組む。
- ☆1 「盛岡市シティプロモーション指針及び推進計画」に基づき市内外に向け たプロモーションの効果を高めるため、マーケティング手法を取り入れ、全庁的な 視点で連携した情報発信を実践する。
- ☆2 移住ニーズに対応するため、相談支援体制の強化を図る。
- ☆3 関係人口が盛岡での具体的な取組にかかわるための機会を創出する。
- ☆4 地元の高校生や大学生が地域課題を知る機会などを提供する。
- ☆5 上記の取組を推進するための拠点を整備する。
- ☆6 舟運事業は、社会実験により得られた情報を基に運航計画を策定し、関係 組織団体の相互協力により必要な施設と運営組織を整備する。安定した運航環 境を確保した上で、継続的にフェスタを実施するとともに、運航回数を増やし、舟 運の認知度を上げる。
- ることでよりプロモーションの効果が高まり、指標の上昇につながる。 ・盛岡との関係性を持ちたいと考える人材と具体的なつながりを創出する場の機 会がない。
- ・市外に転出する前の段階でのアプローチを行うことで、その後の取組を効果的 に展開することが可能となる。
- ・ 舟運事業は、安全に運航できるよう河川環境を含む関連施設の整備と継続的 性を確保できるよう課題解決に向けハード、ソフトの整備が必要である。また、隣 に運航運営できる事業者の確保が重要となる。また、周辺の公園緑地空間が、 接して整備された木伏緑地(公園)が、居心地の良い魅力ある空間として持続的 水辺環境を活かした取組や周辺エリアの活性化とエリア全体の魅力の向上につ ながるよう、地域や関係機関が連携して取り組むことが重要である。